

事務事業名	コード	16520	こども発達センター運営事業	予算科目	会計	款	項	目	所管課	社会福祉課	担当班	障害福祉班
基本施策	7	子育て支援の充実	根拠法令	児童福祉法	一般	3	3	5	事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 主な事業	<input type="checkbox"/> 国土強靱化地域計画	<input type="checkbox"/> 新市建設計画
施策の展開	15	結婚・子育て環境の整備	戦略事業	78	こども発達センター運営事業					<input type="checkbox"/> 定住自立圏構想	<input type="checkbox"/> 主要事業	
施策の展開			戦略事業									

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない		
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 25 年度～ <input type="checkbox"/> 開始年度不詳 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	・小学校就学前の在宅の障害や発達の遅れのある子及び保護者が対象。子と保護者が一緒に日中通い、遊びや小集団での体験や専門職(理学療法・作業療法・言語療法・臨床心理士等)による指導を受け、子どもの特性にあった接し方を学び成長を促していく。 ・保育所・幼稚園等との併用可能。 ・事業の実施は障害者(児)支援に実績があり専門職がいる法人ロザリオの聖母会に委託		
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
平成23年子育て支援課で実施していた「サークル」が終了。障害や遅れのある子どもが指導を受ける場が減少。他市の事業所も利用していたが、市外利用者の受け入れ枠が少なく、希望しても利用できない子ができたことから、市の福祉サービスとして開始。	利用者数は徐々に増加。近隣の事業所も受入数が増えたことで、必要な子がその子にあった事業所を選び利用することができるようになってきている。	・民間保育所からは併用利用することで子どもに落ち着きがでたとの声が開かれている。 ・保護者からも子どもが発達センターを楽しみにしているとの声が開かれている。 ・母子通園のため、下の子どもと一緒に連れてこなければならぬ等都合がつかないという声も聞かれている。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(27年度の決算) 単位:千円		事業費						
1.需用費	1,215	燃料代(灯油)・電気料	千円	0	1,512	1,461	1,215	1,488
2.役務費	8	証明書発行手数料	千円	0	3	3	8	0
3.委託料	16,536	センター運営・清掃業務	千円	0	15,988	16,462	16,536	16,710
	0		千円					
	0		千円					
② 特定財源の内訳(27年度の決算) 単位:千円		事業費計(A)						
1.国庫支出金	0		千円	0	17,503	17,926	17,759	18,198
2.都道府県支出金	0		千円					
3.地方債	0		千円					
4.その他	6,984	事業収入・利用者負担金	千円					
			千円		3,010	7,159	6,984	6,871
			千円	0	14,493	10,767	10,775	11,327

前年度増減理由	
---------	--

従事職員数	常時	1人	最大	人	×	目	=	延べ	0人
-------	----	----	----	---	---	---	---	----	----

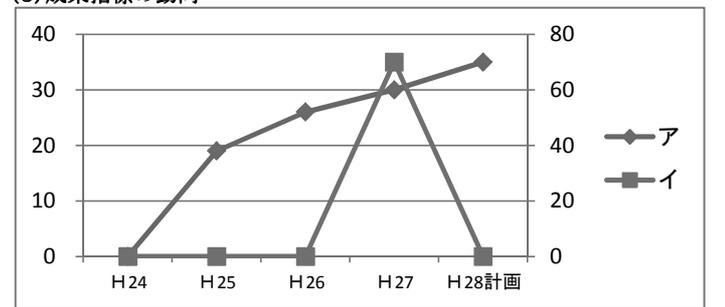
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	27年度実績(27年度に行った主な活動)		ア 事業所開設日	日	—	240	244	229	245
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	イ 専門職指導日数	日	—	119	106	82	100
	対象意図 障害や遅れのある子とその保護者 子ども及び保護者が適切な指導をうけることができる。指導・助言を通して保護者が安心して子育てができる。		④ 成果指標名	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	対象意図 障害や遅れのある子とその保護者 子どもが集団の場でのコミュニケーションや社会性を学べる。		ア こども発達センターを希望した子で利用した人数	人	—	19	26	30	35
			イ 利用者アンケートの結果、「よかった」と答えた保護者の割合(隔年実施)	%	—	—	—	70.0	—

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果			② コスト削減優先度評価結果			
施策貢献度	大きい	成果向上余地 かなりある	評価結果	コスト比率		
	普通	ある程度ある		下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
	小さい	ほとんどない		①	②	③
			④⑤	⑥	(4)	
			⑦⑧	⑨		

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況	<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 順調	<input type="checkbox"/> 概ね順調	<input type="checkbox"/> 停滞	<input type="checkbox"/> 実施困難	
【コメント】 (停滞・実施困難の場合、その理由)						
② 成果の状況	成果指標ア	成果指標イ	数値増=成果向上	<input checked="" type="checkbox"/> 向上	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 低下
【コメント】 (低下の場合、その理由)	成果指標イ	成果指標イ	数値増=成果向上	<input checked="" type="checkbox"/> 向上	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 低下
③ 今年度取組事項 (今年度新たに取り組む事項について記載)	時期	内容	今後の方向性	<input type="checkbox"/> 拡大	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 見直し
		例年通り		<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> その他 ( )